

## 主な質疑等

### (1) 新型コロナウイルス感染症に係る支援策（市独自）の状況について

#### (委員)

・商品券取扱店用のポスターを店頭に掲示した時には一次募集が終わっており、商品券を買いたくても買えない市民がいた。二次募集期間の連絡が取扱店になかった。市ホームページで情報を取りに行くのではなく、LINEを活用する等やり方を考えてほしい。

#### (事務局)

・周知方法については、SNS、新聞、広報等様々なツールにより発信することで幅広く市民に情報が行き届くようにしたい。一次募集時はチラシを全戸配布し、完売しなかったので二次募集で町内会等の回覧、市ホームページ、ウルトラ FM 等により周知に努めた。SNS 等を活用した周知方法は今後検討して参りたい。

#### (委員)

・取扱店ポスターを店に貼ることで購入に来る客がいるので、貼った時に券が買えるようにしていただきたい。

#### (委員)

・次の機会に工夫していただきたい。

#### (委員)

- ・新型コロナウイルス感染症の第3波に伴い、コロナ対策として新たな助成を希望する声がある。
- ・商品券事業の他市町村の状況を教えてほしい。

#### (事務局)

・新型コロナウイルス感染症の長期化を踏まえ、国の第三次補正予算を見極めつつ、市内事業者のニーズを把握しながら市独自の支援策を検討して参りたい。現在、第三次補正予算を見据えて市全体で支援策の取りまとめをしているところである。振興会議委員の意見徴取、商工会議所、各商工会会員の実態の情報収集に努めながら支援策を考えていきたい。

・県内他市町村の商品券事業について、大規模店舗と中小規模店舗に分けているかの情報は持ち合わせていない。平成27年度の地方創生の商品券事業後にアンケート調査をしたところ、利用が大規模店舗に集中し、中小規模店舗に利用が行き渡らない結果であった。今回は新型コロナウイルス感染症で多くの事業者が影響を受けていることを踏まえ、大規模店舗に集中しないよう中小規模店舗専用券を用意した。令和3年3月以降にアンケート調査を実施し、効果を検証して参りたい。

#### (委員)

・飲食業界から、中小規模店舗専用券はありがたい、助かるという声があった。

#### (事務局)

・雇用調整助成金は令和3年2月末まで延長だが、国の第三次補正予算は現時点ではっきりした姿が見えない。市が国の交付金を活用していくにあたり、振興会議委員の提案型の意見を吸い上げ、独自の支援策を考えて参りたい。

**(委員)**

・市内飲食業の現状として、日・月・火曜日を休む店や予約のみの店がある。飲食店は、客のエレベーター使用時、入店時、着座時等で除菌・消毒する等感染予防を徹底しているが、閉店が相次いでおり、ほとんどの店の売上が前年度比半分以下、ごく一握りの店が前年度並みの売上である。飲食業界は冷え切って疲弊しきっており、この状況は続くので、社交料飲業組合、飲食店組合等から生の声を聞いて実態を把握してほしい。従業員は、勤めたくても雇用主から来なくていいと言われ生活が追い込まれている。そのような情報を収集し意見を集約してほしい。感染予防を徹底しているので、安定収入のある人は飲食店を利用してほしい。

**(委員)**

・市、商工会議所、各商工会、商店会連合会等が現実の声を聞いて対策を練ってもらいたい。

**(委員)**

- ・須賀川の離職者数を教えてほしい。
- ・雇用維持等補助金（労働者・事業者）の件数・金額が8月以降増えていない要因は何か。

**(事務局)**

- ・須賀川管内の離職者数は、ハローワーク須賀川からの情報提供がないため押さえていない。市内事業者が雇用調整助成金を活用して雇用維持に努めていると把握している。
- ・雇用維持等補助金の制度設計時は、市が事業者負担分を補助することにしたが、その後国100%負担になったので市への申請数が増加していない。中小企業・小規模企業は、雇用調整助成金申請を社会保険労務士に頼む傾向があるので、申請手数料補助は今後実績が伸びると見込む。

**(委員)**

- ・離職者数が増えている認識はあるか。
- ・国・県の手の届かない施策を市が独自に行うので、市施策を設計するにあたり国・県の施策が市内でどう利用されているか把握する必要がある。

**(事務局)**

- ・新型コロナウイルス感染症の長期化に伴い、夜の飲食店の客数が少なく、離職者数が増えていると想定される。
- ・市は事業主にアンケート調査を実施し、国制度の利用状況や雇用維持、離職状況等について回答の集約中である。商工会議所においても会員事業所のアンケート調査を実施した。これらアンケート結果を踏まえて、事業主の現状に即した支援制度を設計して参りたい。

**(2) 令和3年度市振興施策について**

**(委員)**

・離職者数は今後増えると見込む。夜の飲食店の離職者数はハローワークの統計に表れてこない。他企業の話では、定年後の社員を1年ごとに再雇用しているが、継続雇用できないと聞く。ハローワークが示す数値の2~3倍の離職者がいるのではないか。国のセーフティネットに移る体制づくりが大切であり、市は離職者の実態を把握する必要がある。今年12月の人員削減を予定し

ていた企業が多かった中で雇用調整助成金が2か月延長したので、年明け後の大量離職を危惧している。市民の所得減少が自殺者を生み出すバッドスパイラルに陥らないようセーフティネット整備をお願いしたい。

#### 4 その他

##### (委員)

・都市計画課の翠ヶ丘公園温浴施設等整備事業の説明会に出席した。日曜日の翠ヶ丘公園の駐車場の車両ナンバーを見ると、須賀川が半分、3割が郡山といわき。商工課と観光交流課も関与し、20～30年間通用する未来を見据えた環境整備をお願いしたい。公園内に句碑が多いが樹木で覆われて見えにくい。街全体が公園に注目と興味をもってもらいたい。俳句を中心として、風流のはじめ館の今後の充実もお願いしたい。

##### (事務局)

・翠ヶ丘公園は中心市街地に隣接する全国的に有名な都市公園であり、市の貴重な財産として活用して参りたい。整備・管理運営は、公民連携事業としてPark-PFI（公募設置管理制度）の手法で㈱あおいが予定事業者となっている。老人憩いの家のリニューアル、散歩、ジョギング、温泉の活用等公園全体の民間管理手法導入が、中心市街地活性化基本計画でも位置付けられている。ハード事業だけでなく、施設に客を呼び込む、回遊性の向上につなげるソフト事業をハード事業に組み合わせることも大事であり、関係課と連携するとともに、関係団体の協力をいただきながら中心市街地から公園に人が流れるよう施設やイベントの積極的な活用を進めて参りたい。

##### (委員)

・福島空港について、ANAの人員削減時に市が臨時職員で雇用する等の対応があるとよかった。

##### (委員)

・コロナウイルスは収束どころか感染爆発の状況である。感染して重症病棟に2度入り、一般病棟に移って間もなく退院予定の知人の話では、危篤状態から生還した、命拾いしたが、頭痛の後遺症がひどいとのことだった。抗体は半年しかもたず半年後に感染する可能性がある。ウィズコロナではなくコロナを封じ込めるストップコロナの表現が正しい。

・現在、命を守りながら経済を回しているが、市が打ち出す施策、特にプレミアム付商品券は末端まで周知されたのだろうか。利用可能な店舗や市民の数に対して何%が利用したのか、利用していない店舗や市民にどう周知するか、周知しても利用しない原因はどこにあるのか考える必要がある。

##### (事務局)

・次回会議は令和3年3月を予定。

・茶畑産業拠点整備事業の状況について、大和ハウス㈱で工事が進んでおり、物流ゾーンは12月中に竣工予定、1月から操業開始予定である。製造ゾーンの半分が分譲完了し自動車関連企業が工事を進めており、令和3年夏に操業開始予定である。残り半分の製造ゾーンは企業誘致中で引き合いがある。

・テクニカルリサーチガーデンについては、10月に㈱日向精工と土地売買契約を締結し、現在5区画残っているが全ての区画で引き合いがあり商談中である。

(委員)

・釈迦堂川の右岸だけブルーシートの堤防(大型土嚢)があるが、左岸にないのはなぜか。

(事務局)

・暫定的な治水・浸水対策を関係課で行っている。県が越水箇所に応急的に設置したものである。

(委員)

・茶畑産業拠点整備事業の敷地は浸水したのか。

(事務局)

・浸水しなかった。

以 上